

令和4年度 学校評価 重点課題

栃木県立足利特別支援学校

教育目標・学校経営方針

教育目標	児童生徒の発達や特性を考慮し、一人一人のニーズに応じた教育を通して、社会で自立し、健康で心豊かに生きる人間を育む。
学校経営方針	・子どもを中心に据え、一人一人の実態とニーズに応じた教育を行う。 ・安全で安心して学べる学校環境づくりに努める。 ・教職員同士が協力し明るく意欲あふれた学校づくりに努める。 ・学校・家庭・地域が一体となった学校づくりに努める。

評価基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：やや不十分、一部改善が必要 D：改善が必要

重点目標	重点課題	具体的な取組（評価の観点）	評価	取組状況	改善策・新たな課題
1 学習活動の充実 ・探究心を育む授業を展開するため、教科等の教材開発や研修に努めるとともに、将来を見据えた指導を進め、体験的な学習を充実させ、児童生徒の習得レベルの向上を図る	(1)ICT機器や各種デジタル教材活用による職員の知識・技能の向上 ★関係する質問事項 No.3	・ICT機器やデジタル教材の紹介、活用の仕方を提案する。 ・使用法、活用に関する職員研修の実施する。 ・使用法のマニュアルを作成する。	B	・360度カメラについて簡易マニュアルを作成し、全職員に対し使用方法やYouTubeライブ配信についての研修を実施した。 ・GIGAタブレット（Forms等）の活用に関して、希望した職員に対し研修を実施した。 ・新たな機器や機能に関してマニュアルを作成したが、情報部職員が直接相談を受ける場面も多かった。 ・ICT支援員を通じた教材の紹介や活用支援・授業支援の場面が増えた。	・新たな機器（VRゴーグル等）や機能（MEXCBT等）に関して、職員研修を実施する。 ・ICT支援員と連携し、可能な支援や教材紹介に関する周知を行っていく。 ・マニュアルの周知（格納場所等）をさらに行っていくとともに、相談しやすい雰囲気は崩さず、並行して行っていく。
	(2)児童生徒の主体性や意欲を引き出し、習得レベルの向上や学習内容の定着を目指した授業作り ★関係する質問事項 No.4	・学校課題研究のテーマに沿って、授業改善の視点を明確にした指導案を作成し、研究授業を行う。 ・授業研究会を実施し、各授業改善の視点を中心に検討し、改善を生かして指導実践を重ねる。 ・各研究グループで実践を継続し、児童生徒の学びの様子と教師の指導の評価を客観的に検討する。	A	・各研究主題に沿って、授業改善の視点を記載した学習指導案略案を各教員が作成し、研究授業と授業研究会の実践を行った。児童生徒の学びの様子と教師の指導の両面から評価し、話し合った内容を受け、授業改善に取り組んだ。	・授業改善の視点、「自立活動における目標・指導内容の設定シート」や「キャリア発達段階表」などの実践を継続、定着させていくよう、年間計画や個別の指導計画作成の中でスケジュールを提案する。 ・次年度の学校課題研究のテーマに沿って、研究授業および授業研究会を実施し、授業改善のサイクルを定着させていく。
2 安全・安心 ・児童生徒が心身ともに安全で安心して学べる学校環境づくりに向け、施設・設備の整備点検、各種マニュアルの点検を行い、実践的な指導を推進する	(1)災害や事故等へ、組織的に対応できる知識や技能の習得 ★関係する質問事項 No.2．3	・地震や土砂災害、不審者侵入等を想定した研修・訓練を通して、学習集団ごとに迅速かつ適切に対処できる技能を身に付ける。 ・ホームページや生活指導便りを活用し、防災・防犯への取組を周知する。	A	・防犯訓練では、学習集団ごとに、授業中に不審者が侵入したことを想定して実践的な対処方法を習得することができた。 ・地震や火災の避難訓練では適切に避難し、保護者への引き渡し訓練も滞りなく行えた。 ・ホームページには各訓練の様子を掲載し、学校の取り組みを、保護者や地域に発信することができた。	・災害や不審者対応のマニュアルを見直し、緊急時の組織や体制を、統一して分かりやすくする。全職員で共通理解を図る。 ・管理職不在時の対応などの訓練も行いたい。

3 地域との連携 ・特別支援学校としてのセンター的機能を発揮するとともに、保護者・地域・学校の連携強化を図りながら、交流活動、進路支援などを充実させ、児童生徒が社会とつながることを目指す	(1) 広報活動の充実や情報発信の向上 ★関係する質問事項 No. 3 ★関係する質問事項 No. 2	・ホームページ掲載内容の検討（保護者・児童生徒専用ページなど）を進め、リニューアルする。 ・ホームページQRコードの活用拡大を促す。	B	・職員の意見を参考に内容を整理した。他校のホームページも参考にしながら、親しみやすく見やすい外観を目指してリニューアルを行った。 ・学部だより等の刊行物にホームページのQRコードを挿入するよう周知を行った。	・今後、「児童生徒・保護者専用」のページに何を掲載するか、どこまでの情報を掲載するかを部内で検討し、校務運営委員会等において議論を行う。 ・刊行物へのQRコードの挿入が学校全体で定着するよう、周知を継続する。
	★関係する質問事項 No. 1	・施設見学や進路だより、卒業生講話などを通して、進路に関する情報を発信する。		・PTA役員会の参加方法として、オンラインでの参加ができるよう選択肢を増やしたが、参加する保護者は学校に来校し、実際にはオンラインでの参加は無かった。 ・オンデマンド配信による栃木県特別支援学校教育振興会第54回大会をPTA交流会と同時開催とした。二日間実施し、保護者からのアンケートでは、学校で大会と交流会ができること好評だった。 ・HPには、同窓会、関病連関係のほかに渉外部を作ってもらい、発信している。	・「PTA総会などもオンラインで参加できるようにしてほしい。」との保護者からの要望もあり、今後は、関係する係と連携してPTA総会についてもオンラインでの参加ができるような準備態勢が取れるとよい。
				・福祉施設や市の障がい福祉課等との連携協力のもと、施設見学や進路相談会を実施した。施設見学では、利用可能なサービスなどについて、進路相談会では様々な福祉制度の利用手続きなどについての情報を提供することができた。	・今後も児童生徒・保護者が求める情報を、個別懇談等で把握をし、担任及び関係機関と連携して迅速に情報を提供する。
	(2) 地域との連携の充実 ★関係する質問事項 No. 3 ★関係する質問事項 No. 4	・情報の発信の工夫や校内外の研修の実施に努める。 ・地域の人材（足特サポーター等）を活用した交流活動を継続していくとともに、新たな取り組みについて計画する。	A	・各種たよりやホームページでのお知らせの発信等、年間を通して行った。しかし、保護者アンケート結果からは、さらなる充実や改善が必要であると思われる。 ・夏の地域支援部研修は、新型コロナへの対応や会場の工夫等を行い、実施した。	・保護者にホームページの活用の仕方等をPTA総会時に説明する機会を設ける。 ・夏季休業中の研修について、本校内では多くの人が集まれる場所がないため、実施方法や内容等の検討が必要である。
4 意欲向上 ・明るく意欲にあふれた学校づくりに向け、常に児童生徒の成長を中心に据え、教職員間の信頼関係と協働体制の確立、専門性の向上に努める	(1) 円滑な業務遂行に向けた環境の整備 ★関係する質問事項 No. 1	・統合型校務支援システムについて、関係機関と連携してシステムを整え、活用方法を適宜職員に周知して、円滑に活用できるようにする。	B	・県の担当者やSATTに確認・質問等を行いながら、部分的な導入を始めている。グループウェアは、連絡事項、掲示板等の活用が定着し、時間の短縮・業務の効率化につながった。賢者については今年度から出席簿の使用を始めた。不具合等にその都度対応し、円滑に運用することができたと考えている。	・賢者の活用項目を広げていくため、関係機関と連携し、必要なシステムの整備を行う。円滑な活用に向けて、校内での業務内容を整理し、組織的に取り組める体制を整える。他校の情報も参考にしながら取り組んでいく。
	(2) 教職員の専門性の向上 ★関係する質問事項 No. 2. 3	・学校課題研究の実践内容、成果と課題を研究紀要にまとめる。内容を校内全体で共有し、各自の指導に生かす。	A	・学校課題研究の経過について、栃木県特別支援教育研究集会の伝達会を実施。課題研究の趣旨、留意点等の視点を再確認し、校内の実践の経過および他校の取組について共有する機会をもった。課題研究日や校内伝達会において、改めて課題研究の視点を押さえ、共通理解を図りながら進めた。	・今年度の成果の中で良い取組を参考に、今後の各自の実践に生かしていく。 ・次年度は各研究主題をローテーションさせて校内全体で取り組む計画となるので、今年度までの実践内容、成果と課題を共有し引き継ぎながら、各グループが新しいテーマで課題研究に臨み、専門性の向上を図っていく。